

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	長崎県諫早市福田町3316番地3		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果確定日	平成31年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&jigvosyoCd=4270401369-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の目標として掲げた「QOL(生活の質)の向上を目指し個々にできる事、できない事を見極めて支援していきます。」という目標に向かい毎月入居者の皆さんで行う協同作品、個人別に行う個人作品等、個人または、入居者全員で協力し1年間作品作りを通して皆さんで助け合いながら作品制作を行ってきました。1つの作品をみんなで作ることで完成した時の喜びや達成感が感じられ自然と笑顔になり、入居者同士のコミュニケーションも増え前向きに取り組まれ家族との会話の中にも「作品ば作らんばけん、毎日忙しかと」と笑顔で話される入居者もいらっしゃいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づく運営の項目より、地域貢献の一環として、権利擁護や災害対策、防犯対策等の法人内部研修に、地域住民が参加できるように声かけを行っている。法人として窓口を広げることで地域との関わりが増加するし、地域住民にとっては危機管理に繋がっている。次にスタッフの意見の反映に関連して、ホームの風通しがよく、横のコミュニケーションも良好のため、永年勤続者が多い傾向にある。また、「人を育てる」ことに力を注いでいて、スタッフは多種多様な内外研修を可能な限り、希望に応じて受講することができる。最後にその人らしい暮らしを続けるための日々の支援の項目より、食事を楽しむことのできる支援の一環として、野菜を切ったり、剥いたり、混ぜたり、テーブルを拭いたり、できることは残存能力を活かして、ご利用者の生活意欲を生活の様々な場面から引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際、理念をホールの壁に貼り日勤者と夜勤者で理念を唱和している。また、利用者の生活援助計画の中に理念を掲げ、管理者、職員が理念を共有し、計画に活かせるようにしている。	法人理念を基にして「いつも笑顔でほがらかに心安らぐ地域の中で助けられたり助けたりめざそうみんな健康長寿」というグループホームの理念を掲げている。理念の共有を図るために、毎年、ユニット毎に理念の実践に向けたテーマを、話し合いの中で決めている。また、実践につなげるために、ご利用者の生活援助計画に、理念の文言を入れ込んでいる。このように、ご利用者の支援を行う際にも、理念の文言を「見える化」するようにして、スタッフの理念に対する意識を高める工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事を通して、保育園やボランティアの方々との交流する機会を作り、地域との繋がりに努めている。また、消防署や地域の消防団との防災訓練や地域の草刈りや大掃除にも参加している。	法人は地域に根差して長い期間が経過しているため、ホームを含めた法人自体、長い期間に渡って、地域との交流が続いている。法人として地域に不足している人手をフォローして、大掃除や草刈りに尽力している。また、地域との窓口を広げる意味で、テーマによりけりではあるが、地域の住民に有益と思われるような社内研修に声をかけて、一緒に学ぶことのできるように参加を促している。内容としては権利擁護や防犯関連、災害対策等が一例として挙がっていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践を通して地域の研修会や法人内研修に積極的に参加し地域の方々にも法人内の研修の呼びかけを行い研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回の運営推進会議を開催し家族や民生委員、市役所の職員に参加して頂き、実績報告や事業報告を行っている。毎月、議題を決め報告を行い意見や要望を受け、今後のサービス向上に努めている。	運営推進会議の際に、日常のご利用者の状況や活動報告に加えて年度毎の事業報告や、事故・ヒヤリハット報告、苦情相談受付の報告、消防実施計画等、様々な報告を行っていることを、「運営推進会議議事録」から確認した。議事録は大変詳細に記録されており、非常に活発な意見交換ができていたことを垣間見ることができた。	今後益々の運営推進会議の充実を図るという観点から、様々な参加者に参加してもらうことで、より一層、法人としての対応力が増すことを期待したい。現段階においては、災害や防犯の知識に長けた関係者等が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の班に入っており、参加できる行事には、参加している。運営推進会議や家族会にも市役所の高齢介護課の職員、民生委員に出席頂き家族とも交流をはかっている。	市の関係者と関わる機会として、運営推進会議の場に加えて家族会にも参加があるということであった。介護保険サービスに纏わる内容でお互いに連絡を取り合ったり、流行期になると感染症の発症状況等も情報を提供してくれたりする。このような情報提供を基に、勤務に入る前にスタッフには、検温等の体調管理を徹底するように予防策を徹底するようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や法人内研修に参加し身体拘束については、2か月に1回会議を開き、職員間で話し合いを行い、意識付けを行っている。	身体拘束に関する正しい理解を深めるため、新入スタッフには管理者やリーダーが直接指導を行う。また、現任のスタッフに対しては、内外部の研修受講や事例検討を実施している。法人全体的な取組みとしては、2ヶ月に1回身体拘束防止委員会を開催して、全体的な視点から身体拘束や虐待を廃止するようにしている。法人として一番大切にしている視点は不適切なケアに陥らないように、普段の声かけを丁寧に行っていることである。例えばご利用者に支援する前には必ず、「～しますよ」と伝えてから支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアを実践していく中で、研修などで学んだ知識、虐待について理解を深め職員間で情報を共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識や制度を理解できるよう日々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時又は改定時は説明を行い納得をして頂き捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に家族または、利用者から意見・要望等が何かないか尋ね、毎月のミーティング等で検討し玄関には意見箱を置くなどいつでも記入出来るようにしている。また、家族面会時にも意見・要望がないか尋ねている。	家族等の意見を聴き入れる手段として、普段の面会や運営推進会議の機会を特に重要視している。また、年に1回家族会を開催しており、各ユニットの代表の家族から、様々な意見を出してもらって、実際の支援の場で反映できることは実行している。実際に運営推進会議の議事録を見てみると、家族から多様な意見が出ていることを確認することができた。また、家族からの意見には真摯に返答していることを、ラジオ使用の可否の一例を議事録から確認した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている。週1回の全体ミーティング、月1回のGH合同ミーティングで職員の意見や提案など聞き代表者や管理者と話す機会を設けている。	週1回の高齢者施設のミーティングや、月に1回の2ユニット合同のミーティングを開催して、法人内やホームとしての情報の共有を図っている。通常はリーダーがスタッフからの相談に応じていて、労務管理面や物品購入申請等、必要な情報を管理者に上申するようにしている。このようにスタッフの意見は反映されやすく、風通しもよいことをスタッフのヒアリングからも確認することができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回代表者や管理者や職員が、GH合同ミーティングに参加し、向上心ややりがいをもって働けるように職場環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や外部で開催される研修に積極的に参加し、本人が希望する研修会にも参加できるように環境作りを行い職員1人1人のスキルアップと意識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や法人研修や外部研修会等で交流をもつ機会を設け、サービスの質の向上に励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安な事に耳を傾け利用者の目線に合わせ話を聞き本人の思いを理解しながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とサービス内容を確認、相談しながら決定し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としている支援または、現在の状況を把握し職員と家族が話し合い、必要なサービスを提供し信頼関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人とコミュニケーションを取りながら相手の思いを理解し共に関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の本人の状態を説明特記事項があれば家族の方に報告している。月1回、お便りを出して家族の方に本人の近況報告を行い家族ともに本人を支えていく関係作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人の方との面会の場を作り交流する機会が持てるよう支援している。	馴染みの人や場所の関係継続の支援の一環として、ご利用者のこだわりの美容室へ家族が連れていったり、以前勤めていた職場の方が面会に来たりと、家族の支援や、外部の協力を得ることを中心として実現できている。職員も可能な限り対応しているが、この項目については、高齢化や中重度化により、思うように継続の支援することが難しくなってきた。但し、ご利用者が外出できる心身の状況の場合は、可能な限り馴染みの場所への外出や、人との繋がりが途絶えないようにしていく方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握し、レクリエーション等を通じ利用者同士がコミュニケーションや交流の場を作り関係が円滑になるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も相手の方から相談等があれば必要な情報を提供共有や連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、コミュニケーションを取る中で相手の思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、家族の方から情報を頂き、その情報等から職員間で話し合いを行っている。	日常生活の中で、ご利用者との会話を大切に、表情や行動から思いや意向を把握しようと努めている。また、家族から生活歴や好みを聞き、生活の中で思いを確認している。把握した思いや意向、スタッフの気づきを「申し送り時」や「連絡ノート」で共有し、ケース会議(月1回開催)で話し合う等、思いや意向を客観的に把握する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際は、今までの生活歴や暮らし方、好み等を家族より伺いその情報をもとに私の暮らし方シート・24時間シートを作成し、職員全体が把握し、ケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状態を把握するために、表情や言動、行動に注視し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向を踏まえ、毎日の生活状況、状態を把握し、生活援助計画を見直し及び検討・評価を定期的に行っている会議中で行っている。	「フェイスシート」「課題分析シート」「24時間シート」「わたしの暮らし方シート」で、ご利用者や家族の意向、課題を把握し、ユニット会議で目標、サービス内容を検討して「生活援助計画」を作成している。計画に沿って支援しているか「生活記録」に毎日記入している。基本的に6か月ごとにモニタリングを行い、ユニット会議で話し合い「生活援助計画」に支援結果の評価を記載し、家族に説明し同意を得ている。ご利用者に変化があればその都度検討し「生活援助計画」を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の生活記録を個別の項目ごとに、水日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を、食事摂取量、本人の行動状態など、気づいた点を記録用紙に記載し、申し送り時に活用、職員が常に確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、本人の状況に応じ、空室状況によりショート希望があれば受け入れ対応し、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園児との交流、各ボランティアの受け入れを行い、消防署、民生委員、地域の町内会と協力しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、2週間に1度往診に来て頂き、急変時には、かかりつけ医に連絡を行い連携をとっている。緊急時には、受診及び通院は、職員が同行している。	ご利用者や家族の希望する医療機関を受診している。受診は基本的にスタッフが対応し、必要時には家族と同行している。受診時に、ご利用者の状況を医師に報告し、受診結果は面会時や電話で家族に報告している。必要時は、他診療科目の受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に体調変化があった場合、速やかに医療連携看護師に報告をし判断してもらい、かかりつけ医に連絡し往診してもらったり、受信日に報告を行ったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人の情報提供書を渡し、家族や医療機関の方と話し合いを持ち、退院時には、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に説明を行い看取り介護についての確認書を提示している。本人と家族で話し合いを行い、家族、医師、医療連携従事者、職員の意向を確認して関係者全員で、本人の情報を共有し支援に取り組んでいる。	入居時に、「重度化した場合の対応に係る指針」で医師や医療機関との連絡体制、看取りに関する考え方、ターミナル期の援助方針を家族に説明し同意を得ている。医師が看取りの時期と判断した後、医師と家族、スタッフで今後の方針を話し合っている。ホームでの看取りの希望があれば「看取り介護計画書」を作成し、支援経過を「生活記録」に詳細に記録し、家族に説明している。ホーム担当の看護師や医師と24時間連絡でき、指示を受けられる体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成及び法人内外研修に参加し情報を共有し理解を深め職員全員で周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	月に一度、火災や地震を想定した避難訓練を行い、年に一度、消防署との合同訓練を行っている。また、地域の消防団との連携もはかっている。	「消防体制(夜間対応)マニュアルを作成し、避難訓練(夜間想定、地震等の災害想定含む)を行っている。地元消防分団や、市の環境センター、法人内の他施設、近隣の福祉施設やグループホームとの協力体制も整っている。災害に備えて米や乾物類を備蓄している。消防大会への参加やAED研修、年2回業者による消防設備点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排せつ時などプライバシーに配慮し支援している。一人ひとりの人格を尊重する為、言葉掛けの際には、人格を損ねない言葉掛けを行っている。	ホームでは、「ご利用者の生活ペース」を尊重した支援に取り組んでいる。日常生活の中で、ご利用者の一つひとつの動作に声をかけ、意思を確認しながら支援することでご利用者の安心した生活を確保している。「プライバシーポリシー」「個人情報取扱業務概要説明書」を玄関に掲示し、ホームの方針を明記している。また、個人情報は事務室の鍵付き書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、傾聴、受容、共感を行い自己決定しやすいよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方、一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、本人の意思を尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の愛着がある物、好み等を把握し、生活の中に取り入れる事で、その人らしい、おしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。月に一度、理髪店の方が訪問され、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力を把握し、下膳や食器拭き等を手伝っていただいている。入居者もやりがいや達成感を持っている。	ご利用者は、状態に応じて野菜の下ごしらえや食器拭き等を手伝っている。裏山からヨモギや菜の花を摘み献立やおやつに活かす、行事食で季節の食材を使う等、季節感を大切にしている。ホームでお弁当を作って外出先で食べる、選択メニューを取り入れる等、食欲を高め、食事を楽しむ工夫をしている。ご利用者の身体状況に合わせて食事形態を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のもと、バランスの取れた食事を提供している。食べやすくする為本人同意のもと、一口サイズや食べやすい形状にしている。また、本人の状態を見極め本人に合った食事・水分の形態で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり、口腔ケアを行い、本人に合わせたケアの方法を行っている。出来ない所は、支援を行い対策を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレの自立に向けて、できることはして頂き出来ないことを支援し、見守り、一部介助を行っている。	ご利用者の排泄パターンやサインを把握し、ユニット会議で話し合い支援の統一を図っている。手作りヨーグルトでスムーズな排泄を促し、また、十分な広さを確保したトイレに、排泄時に楽な姿勢がとれ、安全に立ち上がりができるように手すりを設置している。失禁時は他のご利用者に配慮し、さりげなくトイレや浴室に誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人日誌や排泄チェック表の確認を行い、排泄パターンや定期的なトイレ誘導を行っている。1日の水分量も増やしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外週6回行っている。個浴・機械浴を基本とし、入居者のニーズに合わせて行っている。入浴拒否の方は、時間を空けたり、話ながらさりげなく促している。	個浴に加えて機械浴を導入し、ご利用者の身体状況に応じて入浴できるようにしている。入浴を嫌がるご利用者には声かけやタイミング、入浴順番を工夫している。皮膚の状態に合わせて石鹼を変える、ゆっくりと入っていただくために入浴剤を検討する、ご利用者と買い物に行き好みのシャンプーを用意する等、入浴を楽しむ工夫をしている。脱衣室の横にトイレを配置し、室温にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間と安心して休息や安眠できるように利用者の状態や希望に合わせて眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容や目的等の把握を行っている。職員管理の下、服薬が確実に出来るように支援を行い、体調や症状を観察し、必要に応じ医師に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やトランプ、家事の手伝いなどできる事を行って頂き、毎日の生活を楽しく過ごせるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、行事計画を立て職員と一緒に季節ごとの風景を見に出かけている。	「月2回買い物の日」を設け、希望者とお店に出かけている。ご利用者と花の苗を買ってみんなで植える、移動図書館や移動販売を利用する、お誕生日に好きなものをスタッフと買いに行く、家族と買い物や法事、お寺、馴染みの美容室に出かける等、一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員で管理し、外出時、買い物の時は本人に欲しいものを選んでいただき、職員が本人が支払えるよう工夫または、支援を行い購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から等の電話は、職員が入居者に取り次ぎを行い支援している。年賀状・暑中見舞いのはがきは、定期的に送り、本人が書くのが、困難な場合は、職員が書くときに手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節に合った飾り物、入居者と一緒に製作した作品を飾り付け、季節感が出るように工夫している。 室温、湿度にも注意し、入居者の要望も聞き過ぎしやすい環境づくりに努めている。	玄関に季節の花を植え、ホールには観葉植物を置き、窓から桜や彼岸花、稲穂を眺め、蛍やカエルの鳴き声が聞こえる等、自然の中で四季を感じながら生活できる環境が整っている。壁にはご利用者手作りの作品や手芸品を飾り、ご利用者は個々の生活パターンに沿って編み物や塗り絵を楽しむ等、思い思いに過ごしている。ホールには加湿器や空気清浄器を置き、手すりやテーブル等は毎日消毒し、エアコンのフィルターも定期的に掃除する等、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやリビングには、ソファや椅子を各所に配置し、入居者の好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に馴染みのある家具などを配置し、製作した作品や写真を飾り付けて、居心地良く過ごせるように環境を整えている。	居室にはご利用者の希望で、ラジオやダンス、ご利用者の作品、家族の写真、ぬいぐるみ等、馴染みの物を置き、また、各部屋に洗面台を設置するなど、今までの暮らしを継続できるように支援している。居室内を安全に移動できるように、家具の配置にも考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	24時間シート等を活用し入居者の身体能力に合わせて、家事の手伝いや歯磨き、着替えなどできることはして頂き、安全に配慮しながら行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401369		
法人名	社会福祉法人 福翠会		
事業所名	グループホーム 花の里		
所在地	長崎県諫早市福田町3316-3		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果確定日	平成31年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=4270401369-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成31年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・個人支援を徹底し、残存機能を生かした生活を提供している。 ・同一法人の保育園との交流や慰問等が多く、開放的である。 ・安全面も力を入れており、毎月、状況を変えて訓練等を行っている。 ・栄養士の献立のもと、食べやすい形態にて、季節に応じた食事を提供している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に法人理念と各事業所理念を復唱しており、常に実践を活かす努力を行なっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の草刈りや掃除等には積極的に参加し、地域との交流が図れるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ブログの更新を行っており、入居者様と共に行ったこと、入居者様が出来る事をネットを介して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見は、スタッフ同士の話し合いを行ったうえでサービス向上に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一回行っている運営推進会議により役場担当者や民生委員等と顔馴染みになっており、協力体制が出来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に繋がらないよう、いかにケアをしていくかスタッフ同士で話し合い身体拘束をしないよう努めている。また、定期的に身体拘束防止委員会を開いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様への関わり方についてスタッフ同士で声掛けを行いミーティング等を通し虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会にて2ヶ月に1回、人権等の理解に努めている。また、成年後見制度については、対象利用者が必要になられた際に勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては書面を準備し、ご家族の要望に対しての説明をしっかりと行い、ご理解と納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご要望や意見については、その都度書面に書き、運営推進会議にて発表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	度々、研修や行事に関するアンケートが実施されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の声(意見)を出しやすい雰囲気があり、月1回行われているミーティング等で意思疎通を図り、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、定期的に行われる研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での研修はグループワークも多く同業者と意見を交わす機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とのコミュニケーションを通し、本人のニーズを探っていく事で、安心感を確保するための関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご要望も入居時の段階からアセスメントを行い、信頼関係が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント本人の様子を見てスタッフで話し合い必要な支援の見極めを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力や得意分野を活かし、役割のある生活を送ってもらう事で共同生活を行うにあたっての関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特別な理由がない限りは、面会や外出の制限をかけず、家族との時間を大切にもらっている。また、日頃の様子などを報告し、情報を共有する事で、本人を共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会の制限をかけていないので、馴染みの人との交流の時間を取れている。また、馴染みの場所についてはご家族と連絡を取り、ご家族と外出して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間には、なるべく職員が入り良好な関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、家族からの相談を聞き、支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを密に図り、本人からの聞き取りによって、日常生活上の希望、意向を出来るだけ取り入れるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人からの聞き取り、または家族からの話を伺う事により馴染みの物を居室に置いたり等対応を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の現状を把握できるように、定期的な職員の話し合いや本人からの話しを聞く事により状態の変化を見逃さないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員間で連携を取り、ケアの変更等があれば話し合いを来ない、出た意見をすぐに介護計画に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活で気付いた事は、詳細に個別記録に記録し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所間での交流を行い、レクリエーション等のサービス、その他の支援により事業所間の多機能化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携を密に行い、行事等で地域に参加を促し交流できるように図り豊かな暮らしを実現できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を決める際は本人や家族に話をし、希望を聞き取ることができるようにし、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で細かな変化を見逃さず気付いたことがあれば、すぐに医療職へ報告、相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、個別記録、生活援助計画等の介護記録を渡し、説明する事によって互いの情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期においてのあり方を説明し、本人、家族の意向を早めに聴きとる事に努めている。また、職員が研修会や勉強会に参加し理解を深める事に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や勉強会により、定期的に応急処置の対応を学習しており、全ての職員が行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	日常的に自然災害が起こった際に、慌てることなく迅速に対応出来るように避難訓練を行なっている。また、事業所を越えて自然災害発生時に対応出来るように訓練を積んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、言葉掛けに関する学習を深める為、勉強会等に積極的に参加し、自尊心を傷つけない言葉掛けを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の目標を設定し、それに向かい、本人ができる事は何か常に話し合いを行ない支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、本人にこまめに話をすることにより、希望を聞きだせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の嗜好等、本人と話を行ない、楽しんで選択できるように努め、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の盛り付けや、おやつ作業工程を手伝ってもらい、入居者の残存能力を生かすことができるように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の日常的な摂取量を把握して盛り付けることや栄養のバランスを考慮した食事になるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後に必ず職員が介入し、必要に応じて口腔ケアの介助を行うことにより衛生が保たれている。また、各人に合った口腔ケアの方法を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄パターンをつかむために、個人記録を生かし、オムツの使用枚数の削減につなげたり、自立排泄の機会を増やせるように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入居者には、薬(下剤)に頼るだけでなく、運動を取り入れたり、食事や水分補給時に排便を促す食材を使用し、自然便通が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順番や時間等を考慮し、入居者一人一人に合った入浴を、喜んで頂けるように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の生活パターンを把握することにより、日中夜間を通して安心気持ちよく休息できるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、誤薬や飲み忘れ等がないように、マニュアルを遵守し支援を行っている。また、薬変更の際には、職員全員が把握するように周知徹底を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活上において、その人の残存能力を生かせるように役割分担し、楽しみや生きがいになるように支援を行っている。また、定期的に気分転換をも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイク等の外出する機会を定期的に設けている、また、本人の希望により誕生日のプレゼントを買いに出掛けたり等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際は、本人に財布を持ってもらい、現金で支払う事で、金品所持能力維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の能力に応じて、家族等とのやり取りの支援は適時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔保持に努めている。また、季節感を感じられるように、随時、装飾などを時期に応じて変化させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、入居者同士の関係性を大切にしながら、過ごしやすい居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具等のなじみのものを、出来るだけ引き続き使っていただけるように、ご家族も交えて話を行ない、過ごしやすい居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮することはもちろん、入居者に出来る事を維持してもらえるように、共同空間や居室などの工夫を行っており、自立と安全のバランスに気を配っている。		